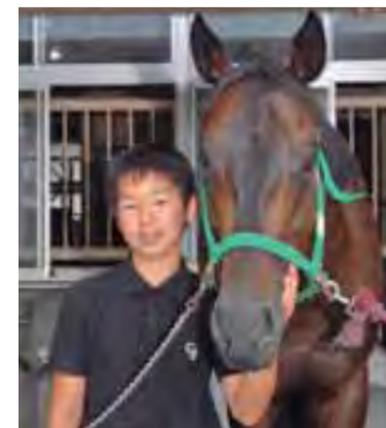


いきいき
まえばし人



夏季県馬術大会で準優勝

荒木 寛樹さん・12歳
富士見町石井

国体目指して一歩ずつ前進を

6月20日に県馬事公苑で行われた夏季県馬術大会。ジュニアの部の小障害飛越Cで、準優勝となった。この競技は、コース内の障害物を跳んで、その出来栄と所定のタイムを競うもの。

「準優勝と聞いて、とてもうれしかったです。でも、自信があったので悔しい気持ちもあります。今回乗った馬・スリーアイアンは乗りやすかったもので、つい飛ばして時間より早く演技を終えてしまいました」

小4の時、祖母の勧めで県馬事公苑へ通い始めた。小5からは同所の乗馬少年団に入団し、土日曜のほか、平日も練習に励んでいる。

「障害飛越競技だけでなく、ほかの競技にもどんどんチャレンジしたいです。今は姿勢を良くすることが

課題。意識して練習しています」

競技で結果を出すには、馬との相性があるのが楽しいという。

「落ち着いている馬もいるし、そうでない馬もいます。なかなか言う事を聞いてくれない馬に乗るのは大変だけど、その分、心が通じたときはうれしいです」

現在、小中学生を対象にした県の国体選手発掘育成プログラム「スリ1Sプログラム」の受講生。月に1度、講義を受けている。

「目標は国体に出ること。そのために、普段から大会にたくさん出場して経験を積みたいです」

馬を見つめる優しい瞳の中にキラリと光る強い意志。今後の活躍に期待したい。



親王牌でトップ選手が熱戦

7月1日から4日まで、グリーンドーム前橋で「寛仁親王牌・世界選手権記念トーナメント」が開かれました。国内トップの競輪選手が熱戦を展開。優勝した市田佳寿浩選手には、寛仁親王殿下から親王牌が手渡されました。

県内の戦後詩について学ぶ



前橋文学館で、6月27日に群馬戦後詩の検証が行われました。詩人・梁瀬和男さんは岡田刀水士などの群馬の若い詩人について講演。参加者は熱心に、県内の戦後詩の歴史を学びました。

新鮮な感性を堂々と発表

6月30日、少年の主張前橋大会を総合福祉会館で開催しました。市内各校を代表する中学生が、日ごろ抱いている意見や考えなどを堂々と発表。力強く新鮮な感性と熱い主張に、会場からは大きな拍手が送られました。



ポンプを操る技術を競う

7月4日、田口町の県消防学校グラウンドで市消防団消防ポンプ操法大会を開催。消防ポンプ車からホースを延ばし、放水して標的を倒すまでの時間や隊員の行動審査などで順位を決定。各地区から予選を勝ち抜いた20チームが、日ごろの練習の成果を競いました。



クローズアップ

わたしたちの学校 ニュース 東中

伝統という「櫛」

わたしたちが通う東中には、行事やあいさつなどの、多くの誇れる伝統があります。

毎年6月には、全校制作という独自の行事があります。これは、4ヶ四方の布に生徒の手形を押し、1つの文字を作り上げるものです。文字は毎年異なり、ことしは「櫛」でした。この文字には、東中の素晴らしい伝統を駅伝の「櫛」のようにつないでいこうという願いが込められています。作業を通して、仲間と協力することの大切さや完成の喜びを分かち合い、東中生の一員としての自覚を改めて持つことができました。完成した作品は、

生徒会長 佐藤 眞悠子さん

中体連の壮行会や合唱コンクール、3年生を送る会などで、ステージに展示されます。

また、昨年からアルミ缶とペットボトルキャップの回収を行っています。アルミ缶は部活動対抗で回収していて、回収状況が分かるよう廊下にグラフを掲示しています。ペットボトルキャップは、週1回の回収で大きなごみ袋1つつ集まることもあります。回収時には、みんなが気持ちのよいあいさつをして通ります。あいさつを当たり前にできる生徒、それが東中生なのです。

先輩から後輩へ代々引き継がれているこれらの伝統。わたしたちの手でよりよく発展させ、「櫛」としてつないでいけるよう頑張っていきます。

みんなの願いを1文字に

1度にたくさん回収